

圖案を調製し該圖案に基き昨年七月起礎の起工に着手し其上に取付くべき金鶏は同校に於て沼田〔一雅〕助教が原型、櫻ヶ岡助教が鑄銅を擔當して夫れく製作中の所基礎は既に竣工し金鶏も此程に至りて全く鑄造を終り目下其仕揚げ中なりと云へば青葉城頭に一大偉觀を現出するも遠きにあらざるべし 本碑はゴシック式の石柱上に鑄銅の金鶏を置き其前後に鑄銅のパズルを裝置し、「昭忠」の文字及び起工竣工の年月を表記するものにて其他は總て石材を用ひ總高六十尺、金鶏の左右翅の直徑一丈五尺餘なるが鑄銅に要せし地金は千四百餘貫に上り其建設總豫算は二萬千二百圓なりといふ

(明治三十五年八月十二日『東京朝日新聞』。挿図は省略する。)

## 6 御買上げ

品目は135頁「成績品の 天覽」参照。

### 関連事項

#### ① 職員任免その他

明治三十四年  
一月二十九日 海野美盛フランスより帰国。

二月一日 千頭庸哉雇を命ぜられる。

二日 教授山田鬼斎歿。

五日 武田五一解嘱。大沢三之助嘱託を命ぜられる。

十三日 岩村透西洋美術史授業嘱託に復帰。

三月二十七日 田島応親解嘱。合田清仏語授業嘱託に復帰。

二十九日 海野美盛復職(教授)。

四月十一日 津田信夫雇(依嘱製作担任兼鑄金科助教)を命ぜら

れる。

五月三日 助教櫻杉浦宗行歿。

十五日 黒田清輝、久米桂一郎帰国。助手小林万吾助教を命ぜられる。

命ぜられる。

二十九日 久米桂一郎復職(教授)。

八月九日 久保田鼎校長を辞任。正木直彦校長を命ぜられる。

十二日 久保田、正木送迎会(上野精養軒)開催。

三十一日 今泉雄作解嘱。

八月 瀧精一解嘱。

九月三日 溝口宗文、本田種竹、新井春次郎解嘱。

六日 蔵原惟郭解嘱。

十二日 中沢澄男解嘱。中村如等、高橋烏谷解雇。大村西

崖彫刻科授業嘱託を解かれ、美学及び美術史授業、支那歴史授業嘱託を命ぜられる。関保之助東洋考古学授業嘱託を命ぜられる。

助教梶島田友春辞職。同天草神来休職(辞職)。

雇千頭庸哉助教に任命される。

助教本多天城辞職。

下村観山、寺崎広業教授に任命される。

助教白井雨山彫刻研究のため二ヶ年間ドイツ、フランス留学を命ぜられる(十一月二日出発)。

菅野真雇(文庫掛)を命ぜられる。

十一月九日 岡田秋嶺助教に任命される。

十二日